

撫子の会
会報

第 4 号
1994. 12. 9 発行
東京学芸大学附
属小金井小学校
同 窓 会

第二回総会開催される

〜風薫る小金井で〜

平成六年六月四日(土)、穏やかな初夏の附属小金井小学校において豊島・追分・小金井三校の第二回「撫子の会」総会が盛大に行われました。晴天に恵まれた当日は、各校の役員、旧教官、同窓生など総勢二百余名が出席しました。懐かしい顔が揃い、小学校時代に戻って思い出話に花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。総会の後に行われた懇親会では、ビンゴゲーム等で盛り上がり、前回の発足会にも増して三校の輪が大きく広がりました。

「撫子の会」総会は、大川和彦氏(昭和三十五年豊島小卒)の司会により進み、寛 光正副会長による開会の辞、天城会長、横山副校長の挨拶の後、議事の審議へと移り、力強い拍手の中で可決されました。(議事の内容については次頁に掲載)

記念講演として、渡辺 茂先生による楽しいお話があり、先生のピアノ演奏のもと、全員で、先生の代表作の一つである『たきび』を合唱、楽しい時が流れました。

今回の「撫子の会」総会をめぐって、いくつかの目を引く動きがありました。平成四年十一月の発足会を契機に、それぞれの年代で同窓会の動きが活発化してきたことが挙げられます。

昭和九年に豊島小卒業の方々は、今年ちょうど卒業六十周年を迎えます。今回の総会に先立ち、戸叶正己氏を中心として、卒業六十周年の「記念植樹」が小金井小学校の校庭になされました。植樹された「次郎柿」は順調に根付き、初夏の日差しに照らされて、立派な実をつけました。

同窓会はアンブレラ

天城会長の挨拶

「撫子の会」第二回に、恩師の先生方をはじめ皆様おいていただきましてありがとうございます。

思えば平成二年に小金井で、豊島、追分、小金井と続いた八十周年記念式典がありました。卒業生も一万二千人を越え、学校名も場所も変わりましたが、撫子の徽章のもとで六年間学んだ仲間ということで団結したというわけです。その式典を踏まえて前回の「発足会」があり、今回の「第二回」があります。今回基金を収めていただいた一番古い方は大正五年卒業の方で、今春小金井小学校を卒業した人のことを思うと、感慨深いものがあります。

何世代にもわたった会員が一同に集まって同窓会を行うことには、様々な意見がありました。副会長をしていただいている豊島の寛さん、追分の沼野さん、小金井の佐々さんがうまく束ねて下さって、二、三年に一回ということで「撫子の会」

が出発いたしました。

大きな収穫は、名簿が一応の整いを見せたことです。これを契機に、次々に仲間の消息が分かってくるようになりました。年次別のクラス会も活発に行われているということで、同窓生の親睦の輪が広がりゆくのは、大変な喜びであります。

「総会」というのは全体のアンブレラで、様々な情報や動きを把握できる機会だと思います。私は豊島の十七回卒ですが、この会の運営その他は、佐々さんを中心とした小金井の若い卒業生に任せていただいています。今後はともお願いしたいと思っています。今日は、時間の許す限り、世代を越えて大いに懇談していただき、懇親の輪を広げていただきたいと思います。ご挨拶に替えさせていただきます。



名簿から始まった同窓会

— 横山副校長挨拶 —

皆さん暑いところようこそおいで下さいました。思い起こしますと、名簿作りには様々な経緯がありました。学校では、ずっと以前から作る、作らないの話がありましたが、創立八十周年開校三十周年を契機として、やっと動き出したわけです。

しかしいざ始めるとなると、二十年の空白があったため雲をつかむような話で、なかなか難しかったのです。そんな折、今はお亡くなりになりました原山政博さん（大正十年豊島小卒）が、一人で克明に調べられて、豊島の名簿はほとんどできあがっていることがわかりました。当時、原山さんは幾度も学校にいらつしやいまして、いろいろなお話をして下さいました。しばらくして、「今度は若いのを何人か連れて来ます」というので期待していたら、若いというのは何と七十歳の方々のことで、豊島はすごいな、とつくづく思いました。それが基になって名簿作りが進み、この同窓会へと発展しているのです。

豊島・追分・小金井には、いろいろな歴史があります。戦争中疎開で卒業していなかった人達もいますし、追分小学校がなくなつたあとは、追分の方々は竹早で卒業していますし、豊島の方々は、大泉、世田谷、竹早と、三校に別れて卒業されている方々もいます。そして高等小学校というものもございました。名簿の作成においては、そうした方々も含めて全部入れてございます。

先週「撫子会」という豊島師範の同窓会がありました。そこで、高等小学校卒の人達が、この名簿を基に、初めて総会を開いて集まるということがわかりました。高等小学校の人達もこの会に参加いただいで、どんどん輪が広がっていけばよいと思つています。

皆様のご期待に添えるように、学校としても努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

第二回総会報告

総会は、天城会長と横山副校長の挨拶に続き、議案の審議に移りました。

まず、沼野泰郎氏（昭和二十三年追分小卒・副会長）を議長に選出した後、以下の一号議案より六号議案が提案され、それぞれ審議の結果原案通り承認されました。各議案について、報告及び提案説明者と主な内容を以下に紹介します。

総会 △云 議事

▼第一号議案

「平成五年度撫子の会会計決算報告」

提案 川田紀雄氏（昭和四十一年小金井小卒・理事）

* 明細については、次頁を参照して下さい。

▼第二号議案

「会計監査報告」

報告 島田 孝氏（昭和四十一年小金井小卒・監事）

* 第一号議案に対する監査報告。

▼第三号議案

「平成六年度からの撫子の会の運営について」

提案 佐々智樹氏（昭和三十九年小金井小卒・副会長）

- ① 新名簿の作成について
- ② 第四号会報の作成について

- ③ 名簿の管理、作成を目的とするパソコンの購入について

▼第四号議案

「会則の一部改正について」

提案 鷗沢 甫氏（昭和三十三年豊島小卒・評議員）

- ① 会則十二の「役員」を次線のように改正する。
- * 会則十二―理事及び監事の任期は三年とし、再任することができる。
- ② 会則十四の五に次線の部分を付け加える。
- * 会則十四の五―評議員会及び理事会は、この会則に定める事項の外、総会より付託された事項を処理する。

- ③ 会則十四の五を十四の四とし、十四の四を十四の五に繰り下げる。

▼第五号議案

「総会より評議員会への付託事項承認について」

提案 鷗沢 甫氏

- ① 会則十四の三の（イ）に定める収支決算のうち、総会の実施されない年度においては、前年度の収支決算の承認を、総会より評議員会に付託する。



▼第六号議案

「総会時での評議員の再任及び留任について」

提案Ⅱ議長

▼第三号議案について

第三号議案での①②③の根幹となっているのは、新しい名簿の作成についてです。

現在使われている名簿は、平成三年二月に作成されたもので、創立八十周年開校三十周年を契機に、故原山政博氏（大正十年豊島小卒）を中心とした、努力の結晶によるものです。この過程で、多くの同窓生の情報が集まりました。この名簿を基にして「撫子の会」が結成され、その成果として平成四年十一月の「発足会」が開催され、今回の「第二回総会」へと受け継がれています。

それら一連の動きの中で、更に数多くの情報が寄せられ、総勢一万二千人を越える同窓生の把握つまり名簿の管理の必要性が益々増してきています。それを受けて、今回の第三号議案である「平成六年度からの『撫子の会』の運営」についての支柱が「新名簿の作成」及び「パソコンの購入」となっています。

今後、総会はもとより各年度の同窓生の動きが活発化されることが予想され、各同窓生による情報の管理と活用が度合いが増してきます。「撫子の会」では運営の一環として「新名簿作成委員会」を近々発足させ、平成七年の完成を目指します。皆様のご協力をお願い致します。

渡辺 茂先生とともに

— 皆で「たきび」を合唱 —

総会での講演として、現在も小金井小学校の音楽講師であり、「たきび」の作曲者として有名な渡辺 茂先生の楽しいお話がありました。総会の議事では少し緊張きみだつた面々、今度は一転して顔をほころばせて聞き入りました。

八十才を越えた現在でも、先生はお元氣そのものです。軽妙な語り口で楽しいお話の内容は、当時豊島師範の音楽部でバイオリンを見てびっくりしたこと、「渡辺 茂」という名前が多くて「たきび」という文字を名刺にくつつけたことなどのエピソードもありました。

盛りあがったところで今度は先生のピアノ演奏により「ふしぎなポケット」や「たきび」を全員で合唱しました。どの顔も童心に返り、楽しく時間が流れました。

（渡辺 茂先生プロフィール）

昭和七年に豊島師範学校を卒業。はるか昔に、教生の先生で教わつたことを記憶している同窓生も。国立・公立小学校で教鞭を執つた後、小金井小、聖徳学園短大での講師や講演活動で活躍中。主な著書に『楽しい音楽指導』（明治図書）、音楽童話『6人の大作曲家』（音楽之友社）等。代表作品としては「たきび」「ふしぎなポケット」「かた ひじ てくび」「あくしゅでこんにちは」などがある。Jリーグのチーム名を全部盛り込んだ「すきすきサッカー」を作るなど、作曲活動も現役である。東京都練馬区在住。

出席していただいた

小山昌一先生からのお便り

会長、役員、小金井附小の皆さんのお世話で、楽しい一時を過ごしました。感謝申し上げます。私どもの喜びは、皆さんがそれぞれの立場で、健康で活躍されることです。豊島、追分、小金井の三つの流れを一つにした「撫子の会」が、隆々発展しますよう期待します。

佐々木（大野）敬子先生からの

欠席のお便り

新緑の美しい季節となりました。小金井小学校の校門から玄関まで、緑のトンネルをくぐって出勤した頃が懐かしく思い出されます。六月四日の撫子の会には是非とも出席したいと思っていたのですが、用事のために、残念ですが欠席させていただきます。

前回出席させていただきました時には、懐かしい思い出とともに歴史の重みを感じられ、また現代を背負う世代の頼もしさに加えて、故郷に帰ったような幸せな安堵感を味わわせていただきました。次回を楽しみにしております。係の皆様のお骨折りに感謝しますとともに、撫子の会の益々のご発展をお祈り致します。

大正十三年豊島小卒 多田 一夫

同級生に会えるだろうと、楽しみにして行きましたが、誰にも会えませんでした。しかし、どんな他人のような気持ちがなく、同窓生つて不思議ですね、少しもさびしくありませんでした。

終始楽しく、講話もとてもよかったです。役員の皆様、本当にご苦労様でした。ありがとうございます。

昭和三年豊島小卒 植木 恒道

六月四日の撫子の会、楽しい日を過ごさせていただきました。ご高配ありがとうございました。次の機会にも恵まれますよう祈っております。

昭和六年豊島小卒 藤原 恭敬

発足会、今回と出席させて頂きました。発足会には男三人女一人（同期）の出席で懐かしく過ご

楽しかった「撫子の会」

初夏の風に吹かれて

～その後のお便り～

し、今回は再会を期し出席しましたが、何と小生一人のみで悩んでいました。そこへ、昭和七、八年卒の方々が声をかけて下され、偶然に友人の弟様や妹様にお会いでき、懐かしさいっぱいでありがたく思います。

昭和七年豊島小卒 佐藤 信太郎

附属小金井小学校の印象は良かった。小学校の先生や生徒は校庭に花など植えておられ、楽しそうでした。同じ学年のクラスメートが一人もいなかったのは残念。今後は出席の前に、友人の出席の有無を予め調べる必要がある。三校合同の同窓

会よりも、別々にやった方が集まり易いと思う。「撫子の会」会報のトレードマーク（五角形の撫子の徽章）のバッジまたは置物などに興味がある人もいよう。要望があれば、有償で配つたらどうでしょうか。

昭和八年豊島小卒 寛 光正

第二回の総会も無事に終わり「撫子の会」の基礎もようやく固まってきたと感じました。会結成のきっかけを作った下さつた原山先輩、全面的支援を続けてきていただいた小金井小の先生方に、改めて感謝いたします。また前回に引き続き協力してくれた、小金井出身の方々にも感謝します。

今回の催しで、会の前途には大いに期待がもてますが、若い人達の出席が非常に悪いのはどうでしょうか。会に関心を持ってもらうための努力が不足しているのでしょうか。

昭和八年豊島小卒 仲田 進一

久しぶりに柴田、大橋先生とお話ができ、それに「たぎび」の渡辺先生による「歌う心」のお話を、楽しく拝聴させていただきました。同期では、平成四、五年と同窓会を開いています。

昭和十年豊島小卒 菊池 正一

天気にも恵まれて、大変盛会でした。役員の方々には深く感謝致します。私が豊島同窓会の幹事をやっていた、昭和十八年頃の幹事の皆様にお会いできなくてちよつと淋しく思いました。次回は是非。

* * * * *

昭和十六年豊島小卒 高木 美典
 日頃何気なくお付き合いしている人に、懇親会でバツタリお逢いしました。初めて同窓だと知ってびっくりし、親しみを新たに。

同期の諸君とは毎年級会で顔を合わせています。先輩後輩の中には何十年ぶりの懐かしい出合いがあります。従って、縦の関係の親睦のためにも、会が一層充実し発展することを期待します。

昭和二十三年豊島小卒 横山(立田)和子
 本日は誠に良い集まりであつたと思います。殊に四十一年組には、若い力を感じました。

昭和二十四年豊島小卒 代居 倫太郎
 創立八十周年以来、一連の同窓会活動にて大馬の労をとらせていただいております。いよいよ来年は「学童疎開五十年」を迎えます。何か新しいイベントも計画されてみては如何？

長い人生で決して忘れられない恩。それは「親の恩」であり「師の恩」ではないでしょうか。これからも「絆」を大切にしていきたいものです。

昭和二十六年追分小卒 藤沢(高田) 治美
 「撫子の会」の皆様、総会当日のお骨折りに感謝しています。

昼間の総会へは出られないけれど、二次会ならば：という方々が数人いたため、追分小二十六年卒の私どもは、腰山太刀男先生を囲んで、代々木のレストランに場所を移して、ひととき懐かしいお話を花を咲かせて旧交をあたためました。

今回は、総会もアットホームな雰囲気、気楽

に過ごせました。概ね好評でした。渡辺 茂先生のお話がおもしろく、心から笑いました。

昭和三十年豊島小卒 逆瀬川 素行

久しぶりに訪れた小金井の「学びや」はあふれるばかりの新緑に包まれ、瞬時にして、何十年前の学校時代の思い出を蘇らせてくれました。

私共の年次は残念ながら四人しか集まりませんでした。総会、懇親会の後は、新宿まで繰り出して三二期会となり、楽しい昔話に花を咲かせたことは言うまでもありません。次回からはもっと

楽しかった「撫子の会」

私たちのなでしこ。。。

それぞれの思い

と同期の面々に声をかけて同期会の輪を広げたいと思っております。

昭和三十一年追分小卒 西山(岡本)マサ子

追分からの出席者は、二十三年卒の沼野、二十五年卒の金子、西島(矢崎)、二十六年卒の坂田、藤沢(高田)、三十二年卒の西山(岡本)、三十六年卒の秋島の七名でしたが、腰山、小川両先生を囲み、昔話に花を咲かせ、楽しいひとときを過ごしました。都心から離れた武蔵野での同窓会で、追分小卒業の皆様、次回にはもっと多くの方々と語り合えたらいいなあと思えました。

昭和四十三年小金井小卒 神津 里季生

久し振りに小金井の校庭を見て、懐かしさで一杯になりました。よろしくお願い致します。

「撫子の会」に想う

昭和十三年豊島小卒 中村 隆勝

初夏を思わせる暑さ。小学校の食堂なので、冷房があるはずがない。会場の設営、資料の整備、進行の打ち合わせ、朝から最後の追い込みが続けられている。

緑に囲まれ、空気もおいしい。都心では味わえない環境に包まれて、第二回会の「撫子の会」総会が開かれた。

出席者の七割が豊島の卒業生、昭和十五年以前の年配の方々がその半分。古い卒業生の参加は本当に嬉しい。これからも一人でも多い先輩の方々のご出席を願いたい。

この総会の企画、準備、実行の中心となったのは小金井の若い役員である。社会的にも働き盛りで、多忙な毎日を送っている世代である。寸暇を割き、時間と労力を費やして、楽しい、思い出深い半日を演出してくれた。豊島の卒業生として、感謝感謝である。

「総会が三年に一度では、間があき過ぎる」の声もある。なるほど、あまり間隔があくと、次第に疎遠になり、戻つほみになつてしまう可能性もある。しかし、開催までの労力を考えると、適当な周期かもしれない。規約は規約として、この辺で一考する価値がありそうだ。



なでしこ それぞれの日々

なつかしい学級日誌

昭和十年豊島小卒 岡村(丹羽) 恭子

ここに一冊の、古びた学級日誌があります。厚さ約五センチ、赤い虫食いだらけのカバーには、昭和九年六年級組の学級標語『成せば成る』のたどたどしい十字刺繍が目を引きまます。

この学級日誌は、豊島師範附属小学校六年生の一年間、クラス全員で、当番が毎日家に持ち回って書き続けた、昭和九年のありのままの生活記録なのです。

一時間目算数、二時間目国語というような授業の内容・欠席者名・気がついたこと・叱られたことなどの記述に、毎日赤インクで先生の添え書きがあります。至楽荘での朝・昼・晩……昭和十年という幼い時代が、彷彿と浮かび上がってきます。天長節の式典などでは、敬語と漢字を実に上手に駆使しています。参観者の氏名が毎日記されていて、五十年前に亡くなった私の母の名前と一言の感想文まで見つけた時には、感激しました。

昭和十年三月に豊島小学校を卒業して、受持の杉山勝栄先生が、私の宝物だとおっしゃって、ご自宅の本棚に大事に保管されていました。昭和五

十二年に杉山先生は御逝去されました。

その後、杉山久子夫人より、「私の代は主人の宝物を大切に保存するけれど、息子の代になれば心配だから」と仰せられて、縁組に返して下さいました。教え子一同感激して回覧し、往時を偲びましたが、これ以上個人の家で埋もれてしまうには、あまりにも貴重な記録です。

本日撫子の会が開催されるに当たり、出席して天城会長を通じ、同窓会に寄付させていただきました。昭和十年という時代の、附属の教育を偲んでいただけのことと存じます。

人生歩み続けて七十の坂を越え、良き師、良き友、良き学び舎でスタートをし、心のふるさとを待つ私共の幸せをしみじみ思います。

* * * * *

この頃思うこと

大正九年豊島小卒 鈴木 嶺夫

私は、ゴルフ場でお歳は？ と聞かれますと、「地球と一緒に太陽を八十六周しました」と答えます。年齢と老化は個人差が多く、無関係だからです。

アインシュタインの相対性理論では、時間空間は絶対的ではなく、遅れたり縮んだりすると言います。宇宙船の乗員は、地球の家族より年のとり方が少ないというのは、今や常識です。最近、地球の自転が毎年約一秒遅れるので(標準時計を一秒遅らせています)、一万年後に一日は二十七時間となります。

こんな不確かな時間の積み上げである「年齢」

を数えても仕方ありません。我々は体内に生体時間(機械学会誌五年一月号)を持ち、これが新陳代謝を司っています。両親から授かった天寿を全うするには、心のストレスを作らぬように、心の安らぎを得る般若心経を読み、聖書マタイ七の

「人をさばくな」、佛典修証義の「愚痴るな」を実行し、両親を敬い(モーゼ十戒)、すべてに感謝していれば、日々是妙日を謳歌できるでしょう。

肉体(質量)は消えても、霊(エネルギー)は残存(エネルギー=質量×光速²乗公式)することとは、各宗教も認めています。死は人生の通過点に過ぎません。彼岸での苦業はルカ十六修証義に記されています。他人のお役に立つて暮らしたいものです。

* * * * *

記録は残っている

昭和四十一年小金井小卒 島田 孝

小金井小学校の学報「なでしこ」第三十五号を見てびっくり。水泳記録会に、六年男子二五米平泳ぎ二〇秒〇の記録が残っていました。記憶に間違いがなければ、これは同期の川田君の記録で、あの時私は二〇秒四で二位。あの時も少し頑張っていたら……と思うと共に、三十年近く破られていないのもすごいと感じています。陸上でも同君とはよきライバルで、中学進学後も矢吹君、有馬君を加えてシノギを削り合い、記録を次々と塗り替えていったことが思い出されます。「撫子の会」をもっと発展させて、いつか「撫子オリンピック」でもやってみたい……。

『至楽荘』から

親愛なる君へ



昭和五十九年小金井小卒

田中恒壽

拝啓 晩夏の候

君が附属小学校を卒業してから、もう何年も経ちますが、お元気でしょうか。

私は今、至楽荘にきています。小学校時代遠泳をした、あの思い出の海です。私は大学に入ってから水泳助手として四回、この海にやって来ましたが、今は個人的に余暇で来ています。本当に素晴らしい所です。覚えていますか、あの抜けるような青空、澄みきったマリンスプルの海、さらさらと広がる砂浜を。私は今それを目の前にしてとても感動しています。遠くに見える烏帽子岩が、私を小学生時代にタイムスリップさせるかのようです。今は建て変わった至楽荘、でも鶴原の町は昔と全然変わっていません。これからしばし、昔の至楽荘を思い出してみることにはしましょう。

聞くところによれば、至楽荘は昭和九年（一九三四）に完成し、当時は六年生が十四日間、四・五年生は十日間の生活をしてたそうです。交通は非常に不便でしたが、だからこそ家から離れた教育に絶好と考えられたのでしょう。戦時中は中断したものの、師範学校と附属小学校児童の鍛練の場として利用されてきたと言います。単純計算

してみても、約一万人の人がこの至楽荘で生活してきたことになりす。何と驚くべき数字！私もその中の一人に入っていられるのかと思うと、何となく嬉しい気がします。きつと至楽荘を利用してきた誰もが、重なる「歴史」を肌で感じてきたに違いありません。そしてこれまでここで生活した「なでしこ」達の熱い息吹が、この独特の生活空間を創りあげて来たことに、誰もが気付くはずです。君も至楽荘へ来たことがあるのですから、想像していただける世界だと思います。

古い中にも味があり、しかもその味が鶴原の潮の香りと絶妙のハーモニーを奏で、素晴らしい生活空間を生み出していた古い至楽荘。私はここに現代の文明社会が忘れつつある「夏の生活の原点」「幸福の原点」が見え隠れしていたのではないかという気がしてなりません。歩くたびにキシキシと音をたてた廊下も、蚊が入ってくると大バニツクとなつた蚊帳での夜も、数えきれぬほど多くの傷が付いた部屋の柱も、みんな至楽荘の持つていた「古き良き味」であり、そこに都会とは異なる郷里ならではの「豊かさ」というものを私は感じました。歴史ある場所でしか感じ得ない、趣深き「心の喜び」とでも申しましょうか。

私が大学一年生の夏に、六年ぶりにこの鶴原にやって来た時、海も町も建物も、全くと言っていいほど変わっていませんでした。そして至楽荘での生活も、六年前と全く同じ形式で進められ、昔と同じように遠泳も実行されていたのです。私は子供達の姿を昔の自分とオーバーラップさせることで、私自身の至楽荘生活での思い出が次々と甦り、とても懐かしく思いました。

しかし、いつまでも変わらなくて欲しいと思つた至楽荘も、築後六十年を経て激しく老朽化し、一九九二年秋にその姿を消したのです。永遠の別れとなつた古い至楽荘に、私は最後に、「ご苦労様」と声をかけ、何も答えず静かにたたずむ至楽荘に涙さえ覚えたものでした。蝉の声の響く、暑い暑い夏の日のことでした。

さて、心機一転、生まれ変わった至楽荘は実に快適になりました。規模も一・五倍になり、温水シャワーも完備した、オレンジ瓦で白い壁、木造二階建、立派な建物です。きつとここを訪れた誰もが「ここが本当の至楽荘なのか？」と自分の目を疑うと思います。海辺から見てもこの建物は一際目立ち、輝いて見えます。建物の雰囲気はどことなく旧至楽荘に似ている気もしますが、中の設備は生活するに申し分なく完成されていると言えます。「多目的室」も増設され、様々な行事が天候に関係なく実に行い易くなりました。まあ、何はともあれ「百聞は一見に如かず」是非一度こちらの鶴原まで足を運んでみて下さい。その心地良さを実感していただけたらと思います。

そして海も相変わらずとてもきれいです。東京からわずか一〇〇分程度で訪れられる所とは思えない、美しく透き通つたマリンスプルの海です。太平洋の水平線には、都会でのどたばたを全て消し去る不思議な魅力もあります。海の幸も実に豊かで、新鮮な伊勢エビやアワビを存分に口にすることが出来ます。鶴原理想郷や、勝浦海中公園といった景勝地も最高です。私はこれまで多くの海を訪れましたが、鶴原ほどバランスがとれていて



(平成六年八月二十八日 鶴原にて)

親愛なる君へ

美しい海はないと思うのです。
 どうぞ君も、口では伝え切れないこの感動を味
 わいに来て下さい。そしてこの鶴原で、昔の自分
 を振り返ってみて下さい。きっと「自分らしさ」
 の原点を、この地で垣間見てもらうことができる
 と、私は信じています。そして、附属小学校に育
 った私達は本当に幸せだったのだなと、心から実
 感できると思うのです。
 また、至楽荘で会いましょう…。

敬具

旧至楽荘の模型が完成

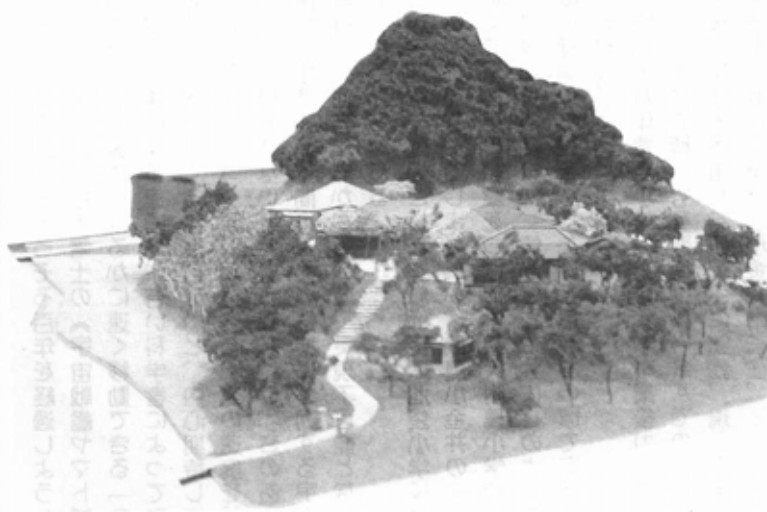
旧至楽荘の模型が、完成しました。六十年の歳
 月を経て老朽化著しかった旧至楽荘は、平成四年
 九月に、あとかたもなくなってしまう。取り
 壊しに際し、同窓生や児童から、自分たちを育
 てくれた至楽荘を懐かしむ声がありました。

至楽荘を最後に利用することになった六年生が、
 その姿を多くのスケッチに残してくれました。そ
 れらは現在、畳一枚ほどのパネルにまとめられ、
 Aさようなら、オールドハウスの至楽荘Vとなっ
 て、小学校に飾られています。卒業記念で旧至楽
 荘の模型を作れないかとも検討されましたが、時
 間的に実現しませんでした。

平成五年六月、至楽荘は新しく生まれ変わりました
 が、旧至楽荘を懐かしむ声はますます大きく
 なり、模型の制作へと向かったのです。熱い声を
 受け、「豊島修練会」も模型の製作に快く賛同、
 費用の面でも全面的にバックアップして下さいま
 した。このような経緯で、世田谷区の榎アクトス
 タジオに制作を依頼、平成六年十月に、趣のある
 旧至楽荘の模型が完成したのです。

完成した模型は、一辺が一メートルに及ぶ大き
 なもので、建築図面から縮小して起こし、ガラス
 戸も一枚一枚作ってある精巧なものです。周囲に赤ふ
 んや水着姿の子供や先生が散らばっています。

今回、模型は同じものが全部で三個作られまし
 た。新至楽荘の玄関、成美会館、そして小金井小
 学校に、それぞれ保管され、訪れた人の目を和ま
 せてくれています。



(旧至楽荘の模型小金井小学校にて)

至楽荘のご案内

《所在地》千葉県勝浦市鶴原九二〇

【申し込み方法】平日午後三時以降に小金井小学
 校(〇四二三二二五二二一八)の担当者へ電話
 するか、あるいは荘の管理人清水さんへ、直接電
 話で申し込んでも可。

《TEL》〇四七〇(七六)二七九一

《FAX》〇四七〇(七六)三二七七

同窓生の ひろば

宇宙開発との三十年

宇宙科学研究所教授 西村 敏充

筆者は、一九五三年に東大を卒業後渡米して、サンフランシスコの近くにあるカリフォルニア大学バークレイ校の大学院に入学した。そこで修士号及び博士号を取得した後、ロサンゼルス近郊パサデナ市にあるNASAのジェット推進研究所(JPL)に職を得て、研究生活を始めた。この研究所で十数年を過ごしてから帰国し、暫くしてから文部省宇宙科学研究所に勤務した。それから十数年で、結局ほぼ二十年をアメリカで過ごし、その後二十年を日本で過ごしたことになる。

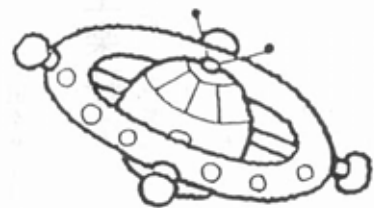
その間、カリフォルニア大学での大学院時代を除いた三十年以上の、前半はアメリカで、後半は日本で、宇宙の開発研究に従事したことになる。JPLでは火星に着陸したバイキング計画や、木星、土星、天王星、海王星と十二年をかけて飛び続けて観測したボエージャー計画などに参加することができた。日本に帰ってからは、宇宙研において、七十六年に一度廻ってくるハレー彗星を探査機で観測する計画や、『白鳥』『銀河』などの、地球の周りを廻る人工衛星を使ってX線を用

いて観測し、クエザーやブラックホールの神秘を探る計画などにも参加することができた。

今年の夏はシューメーカー・レビー彗星が木星の表面に連続して衝突したり、日本で最初の女性宇宙飛行士向井千秋さんがスペースシャトルに搭乗したり、また中位の成功に終わってしまったが、宇宙開発事業団の技術試験衛星「きく」六号の打ち上げなど、宇宙に関する活躍がテレビや紙面を賑わせた。

宇宙開発は大変お金のかかる事業であるけれども、その目的の一つに、地上では大気隔てられてできない可視光線やX線での観測が、宇宙空間に打ち上げられた人工衛星によって初めて可能になる。その代表的な例としてはアメリカのハブル天体望遠鏡があるし、またX線を観測する宇宙研のミッションがある。

十九世紀の末には、ニュートン力学に基づいてゆる機械論の完成によって、もう科学はするところが失くなってしまったと思われた時期があったとのことである。しかし今世紀に入って、アインシュタインの相対性理論の発表によって、天文学も宇宙科学も、根本的な変革をとげてしまった。



そしてその時からそろそろ百年を経過しようとしている折りに、松本零士の『宇宙戦艦ヤマト』のように、光速よりはるかに速く移動できる「ワープ」を達成する理論が、若い科学者によって発表される機会がくるに違いないと、内心期待している。アインシュタインが述べた「光の速度を超えることはできない」という呪(くび)きのある限り、生きている間に遠くの恒星に移動する宇宙旅行も、何万年もかかるので、実現不可能となってしまうからである。

筆者が六年間過ごした豊島師範の池袋小学校はもはや失くなってしまったが、武蔵小金井の自宅近くで、撫子の徽章をつけた学芸大附属小学校の子供達を見るたびに、懐かしさと共にこのような夢の理論の実現を託したいと思うこの頃である。

(西村 敏充氏プロフィール)

昭和十八年豊島小卒、東京大学卒業後カリフォルニア大学で博士号を取得。NASAでの研究生生活後、文部省宇宙科学研究所に勤務。現在宇宙科学研究所教授。東京都小金井市在住。

同窓会と漱石と

中島(長島) 裕子

私が小金井小学校に通っておりましたのは、昭和三十五年四月から四十一年三月までの六年間で、入学した時には、上級生は二年生しかいない本場に小さな小学校でした。水泳は大学のプールを借りていましたし、校庭の外れの草むらで遊んでいて、気づくと疾うに授業の始まっていたという事も珍しくないことでした。その後、四年生になった時に、豊島小学校からの大勢の仲間と一緒にとなり、六年生まで揃った学校となったのでした。追分小学校、豊島小学校の古い歴史と伝統の上に、小金井小学校の歩みがさらに三十年余も加わった今、その大きな大きな流れは一人一人の卒業生によって形作られてきたことを思わずにはいられません。

先日、ある機会に、話をしている相手の方が小金井小学校の卒業生であることがわかり、お互いに驚きあったものでしたが、偶然そういう場面に会おうと、理屈をこえてうれしくなってしまうのが不思議です。また、同窓会のご案内をきっかけに、低学年を同じクラスで過ごした、なつかしい友人からの、思いがけずうれしい電話に接した折には、次々にあふれ出てくる思い出話に、つい時を忘れたものでした。ひとつ飛びに、小金井の校舎での日々が目の前に立ち現れ、一つ一つの出来事と共に、その時の気持ちや気分までもが思い起こされて鮮やかでした。

今こうしてあれこれ思いをめぐらせておりま

すうちに、ふと私が学生時代から関心を持ち続けてきた夏目漱石が、実は非常に同窓会的な雰囲気の中にいた人だということに思い当たりました。

漱石の大学予備門(現在の教養課程)以来の同級生には正岡子規がいましたし、英語教師時代の教え子たちがいつも漱石のもとに集まり、のちには『木曜会』という面会日まで設けられていました。現在とは比較にならない程、学校の数の少なかった明治時代のことではありますが、漱石は生涯にわたっていくつもの同級同窓の輪の中にいたと言えるでしょう。またその作品を繙(ひもと)くと、『三四郎』『それから』『心』を初めとして、多くの作品が、主人公とその同級生同窓生の物語であることに気づきます。作家として漱石の活躍はほとんどが四十代の約十年間のことですが、その描く作品世界には、繰り返し学生時代の人間関係を軸とする人物が登場してきます。同級同窓の輪というのは、漱石の作品についても言えることなのです。

そして、この作家漱石の誕生には、同級生であった正岡子規の存在を考えないわけにはいきませ



ん。二人が出会ったのは十七歳の時でしたが、漱石が作家として世に出た時には、子規は既に亡くなっていました。子規の提唱した俳句の革新運動も夥(おびただ)しい著作も皆、三十五歳で病没するまでの短い期間のものなのです。特に後半は闘病中の仕事でした。漱石は三十三歳でイギリスに留学しましたが、ロンドンから書き送った手紙を、子規は殊のほか喜び、ぜひまた続きを書いてくれと頼む返事を出しています。しかし、漱石がそれを果たさぬ間に、子規は世を去ってしまいました。留学中の漱石は、後に、袋に詰められても

がいている人という言い方で当時の自分を表していました。第一回の文部省派遣の英語研究のための留学生活は、大変に苦しいものでした。いくら病中の子規を思いながらも、漱石には子規の願いを叶えることができなかったのです。そして、書けなかった子規への手紙の替わりとでもいうように、帰国後程なくして、漱石は『吾輩は猫である』を皮切りに、次々と作品を発表し始めます。「漱石」という号も、実は学生時代に子規から借りた、子規の別号の一つなのです。漱石は、同窓という出会いの場をそのままに自らの生きる課題として引き受けた人だと思えてなりません。また新たに漱石について考えてみたいと思いはじめます。

(中島(長島) 裕子氏プロフィール)

昭和四十一年小金井小卒。早稲田大学大学院文学研究科博士課程前期修了。元東京学芸大学附属高等学校教諭。著作として『夏目漱石の手紙』(共著、大修館書店、一九九四・四)がある。東京都小平市在住。

基金を拠出して くださった方々

入金事務は十分注意していますが、万一洩れがありましたらお詫び申し上げます。その場合は、払込金受領証をお確かめの上、お知らせ下さい。また、係りの手落ちから先生方からも多くのご芳志を頂戴しましたが、ここでは割愛させていただきました。
(平成六年四月以降一〇月末日入金分まで、敬称略。太字は「撫子の会」役員です)

豊島小学校	名取 豊子	松本 倫枝	齊藤 博	寛 光正	内田 深翠	佐藤 榮志	柳沼 誠	金沢 美恵子	板津 直明
大正五年卒	石田 千枝子	田中 ぶき子	茂野 溟二	加納 和夫	及川 綾子	高橋 義雄	山本 悦子	昭和二年卒	川谷 幸磨
大正六年卒	大正一三年卒	昭和三三年卒	篠原 恭敬	岸野 政治	小笹 美枝子	村上 三二	阿部 久子	大島 利勝	栗原 昭治
小林 俊	牛尾 耕一	天城 勲	高野 夏雄	島純 達治	宮地 清枝	飯村 康	飯牟禮 こう	後藤 文男	佐々木 輝夫
大正八年卒	國行 英一	植木 恒道	鈴木 寿美江	島 健一	杉山 京子	蓮田 亨	佐藤 康	小林 啓美	高田 都一郎
及部 龍雄	多田 一夫	沖進	丸山 澄江	陶山 好夫	松本 鈴子	三宅 正夫	杉村 久仁子	桜井 達彦	田村 信
大正九年卒	平野 弘	笠羽 榮司	久芳 花子	曾我 道照	石垣 彰義	宮田 晴子	大町 東陽子	中村 隆勝	大東 省三
細井 敏夫	川村 芳子	黒沼 健弘	深井 和子	竹山 幹夫	河村 正一	安達 重子	堀嘉子	新関 暢一	岡崎 正義
鈴木 嶺夫	林 静枝	藤田 善彦	片多 愛子	高橋 純	後藤 二三	篠崎 幸子	堀谷 容子	早川 政名	栗原 幸一
松平 勇雄	大正一四年卒	山下 正元	昭和七年卒	辻村 栄次	坂本 衛	能島 京子	田谷 華子	前田 行一	栗原 幸一
堀 京子	田村 寛	山本 愛子	秋山 宏一	杉村 興作	米沢 照子	佐野 治	沼波 華子	宮崎 泉	栗原 幸一
佐藤 露子	西野 重正	藤原 和	有泉 俊亮	仲田 誠也	山川 重次	今村 良子	米沢 照子	阿部 令彦	黒沢 昭男
大正一〇年卒	御園生 圭輔	高城 静江	大内 隆二	宮崎 清文	山本 靖	田中 瑞穂	菅野 文子	阿部 令彦	志立 託爾
南摩 文綱	大正一五年卒	寺田 淳	荻野 初彦	三好 修	小川 正己	岡野 早苗	三上 英子	鶴沢 甫	下島 俊雄
野村 英一	小片 行雄	昭和三四年卒	大倉 康哉	茂串 俊	堀江 和夫	大森 錦江	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
安宅 敏子	近藤 宜明	富岡 昭則	佐藤 信太郎	若林 幸	守田 武彦	関 武子	大澤 治人	小川 芳弘	中井 毅夫
足立 梅子	高木 外夫	井上 さな江	高橋 英一	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	鶴沢 甫	井部 毅夫
嶋田 美恵子	竹林 保次	吉田 孝子	網島 衛	白井 慶之	立花 伊世子	大場 壽子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
下平 朝子	武部 正常	山田 フミ	村田 敏郎	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
山田 百合子	武安 将光	中川 英子	渡辺 隆二	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
上野山 敬子	三好 信彦	鈴木 すゑ	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
大正一一年卒	山邊 卓郎	新井 喜代子	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
宮原 俊雄	中村 千香子	加藤 綾子	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
岡田 千鶴	那知上多喜子	昭和三五年卒	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
大正一二年卒	萩原 輝子	福岡 成忠	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
堤 健郎	高田 文子	宮杜 武夫	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
村岡 忠孝	昭和三二年卒	川瀬 初恵	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
大石 千代子	有田 一雄	中村 実枝	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
鳥羽 茂子	岸田 文男	近藤 美代子	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
小沢 ケイ	小川 卓郎	矢野 和枝	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
太田 多重子	脇坂 充	昭和三六年卒	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫
金原 雪子	茶原 絢子	宇佐美 勝	岩井 貴美子	岩城 慶之	宮下 淳子	小田村 蓮子	石原 透	柴田 芳弘	井部 毅夫

沼野 泰郎	昭和三〇年卒	今城 紀子	田代 郁夫	森本 由起子	深山 泰子	河田 優子	木村 惠津子	吉見 浩	内田 竜哉
岩澤 順子	昭和三〇年卒	伊藤 道生	澤井 明子	嶋田 一夫	昭和三七年卒	根本 学	昭和三八年卒	吉見 礼二	高林 滋
高寺 閑枝	昭和三〇年卒	山本 裕雄	昭和三八年卒	菅本 光洋	山崎 敬子	河野 朝恵	八木原 容子	田中 真紀	保坂 益貴
間宮 千代子	昭和三八年卒	昭和三八年卒	天野 佳之	土谷 一寿	篠崎 惠美子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	堀内 一寿
太田 悦子	昭和三八年卒	昭和三八年卒	宇都宮 一典	昭和三三年卒	保坂 健二	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三四年卒	昭和三四年卒	今淵 園子	北沢 進	昭和三三年卒	笹原 志保美	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
井上 京子	昭和三四年卒	昭和三四年卒	島田 孝	昭和三三年卒	柴田 純子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
清水 俊子	昭和三四年卒	昭和三四年卒	水田 孝	昭和三三年卒	武宮 純子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
野村 嘉次	昭和三四年卒	昭和三四年卒	吉方 久雄	昭和三三年卒	田中 百合佳	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
中島 弘子	昭和三四年卒	昭和三四年卒	松井 千草	昭和三三年卒	堤 高明	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
本間 暉代	昭和三四年卒	昭和三四年卒	佐々木 邦子	昭和三三年卒	肥田 弓代	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三五年卒	昭和三五年卒	昭和三五年卒	植村 暁子	昭和三三年卒	森 尋美	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
金子 修也	昭和三五年卒	昭和三五年卒	牛込 章守	昭和三三年卒	繩 賢治	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
小林 太郎	昭和三五年卒	昭和三五年卒	杉谷 祐	昭和三三年卒	堀 治子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
森田 弘子	昭和三五年卒	昭和三五年卒	長谷川 淳	昭和三三年卒	桑原 瑞枝	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
西島 英子	昭和三五年卒	昭和三五年卒	新保 美由紀	昭和三三年卒	加藤 素子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三六年卒	昭和三六年卒	昭和三六年卒	小林 あけみ	昭和三三年卒	荒井 裕子	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
田代 正明	昭和三六年卒	昭和三六年卒	中島 裕子	昭和三三年卒	志茂 栄実	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
河合 美登里	昭和三六年卒	昭和三六年卒	北島 郁代	昭和三三年卒	八木原 良貴	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
坂田 義輝	昭和三六年卒	昭和三六年卒	蛇草 智子	昭和三三年卒	川野 英治	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
高橋 一永	昭和三六年卒	昭和三六年卒	石井 富美子	昭和三三年卒	堀 直末	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
藤澤 治美	昭和三六年卒	昭和三六年卒	井上 英丸	昭和三三年卒	田中 泰恵	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三七年卒	昭和三七年卒	昭和三七年卒	柏木 秀一	昭和三三年卒	高野 泰彦	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
米山 誠二	昭和三七年卒	昭和三七年卒	川田 紀雄	昭和三三年卒	竹平 哲也	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
野田 美美子	昭和三七年卒	昭和三七年卒	久良木 博史	昭和三三年卒	吉久 彰	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
保住 和代	昭和三七年卒	昭和三七年卒	鈴木 弘	昭和三三年卒	工藤 勝代	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三八年卒	昭和三八年卒	昭和三八年卒	高橋 秀実	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
花園 昌成	昭和三八年卒	昭和三八年卒	平沢 均	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
桜井 宏子	昭和三八年卒	昭和三八年卒	渡辺 昇	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
川島 陽子	昭和三八年卒	昭和三八年卒	高林 敏子	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
小口 直人	昭和三八年卒	昭和三八年卒	飯田 真澄	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
新保 義和	昭和三八年卒	昭和三八年卒	山口 仁美	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三九年卒	高木 織江	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
黒川 宏	昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三四年卒	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
山下 清明	昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三四年卒	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
長谷川 光代	昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三四年卒	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
武田 亘弘	昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三四年卒	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子
鈴木 千慧子	昭和三九年卒	昭和三九年卒	昭和三四年卒	昭和三三年卒	昭和三〇年卒	昭和三二年卒	昭和三九年卒	昭和三三年卒	高橋 淳子

撫子の会

インフォメーション

名簿改訂委員会（仮称） 発足

第二回総会での決定を踏まえて「名簿改訂委員会」（仮称）が発足します。準備委員長には川田紀雄氏（昭和四十一年小金井小卒）が就任しました。新しい名簿は、平成八（一九九六）年初夏の発行を目指し、下段に示したスケジュールに基づいて作業を進めていきます。

一万二千人に及ぶ同窓生の姿を正確に把握することは、なかなか大変なことです。昔と比べて簡単に引越しができる現代、住所に関する情報が頻繁に変わります。平成三年発行のものを基に、より正確に、さらに拡充していこうというものです。この機会に、小学校と協議のうえで、専用のパソコンを購入し、活用していきます。

なお、委員及び今後の進め方のおよその時期については、次のように考えています。

【名簿改訂委員】

- 豊島小学校…中村隆勝氏（昭和十三年卒）
 - 追分小学校…藤沢（高田）治美氏（昭和二十六年卒）
 - 小金井小学校…川田紀雄氏（前出）
 - △学校側▽藤原 直之先生
- そのほか、評議員を中心とする数名の方々にお願

いする予定です。

【およその作成スケジュール】

- ①作成方針を協議⇒平成七（一九九五）年三月まで
- ②各期の幹事に作業の依頼⇒平成七年五月まで
- ③依頼した資料の回収整理、コンピュータ入力
- ④改訂、編集、印刷出稿⇒平成七年十月まで
- ⑤発行、発送⇒平成八（一九九六）年五月

【お願い】この名簿にどのような情報を盛り込んでいくかということをはじめ、発行部数、価格、索引作成などについては、今後段階的に決めていきます。調査は平成七年の夏ころになると思いますが、知り合いや兄弟など、いろいろな方面から広く情報提供のご協力をお願いいたします。

半世紀を経て卒業式

— 東京芸術劇場で —

豊島小学校第三十四期生は、昭和二十年三月の卒業です。平成七年四月十五日（土）、豊島小跡地に建設された芸術劇場の一室を借りて同期会を行い、晴れて卒業式を挙行します。学窓を巣立つて半世紀目に当たります。当時、戦争が激しくなつたために、集団疎開組と縁故疎開組とが散り散りになってしまい、卒業証書をいただかなかつた児童が多かつたためです。当日は併せて、思い出に残る小学校生活のエッセイ集を発行すべく、準備中です。（昭和二十年豊島小卒 中山 茂雄）



寄贈

同窓会に、貴重な物品の寄贈を受けました。ありがとうございました。
▽豊島小学校昭和九年度六年級組の「学級日誌」
一岡村（丹羽）恭子さん（昭和十年豊島小卒より）
（本文七ページ参照）

成美教育文化会館の改築

東久留米市東本町八の一四にある成美教育文化会館は、かつて豊島成美荘のあったところで、小金井小学校の教育を裏面から支えている「財団法人豊島修練会」の拠点です。地元の教育文化発展にも大きく寄与してきましたが、施設の老朽化に伴い、新しい会館を建設することになりました。

この建築事業は、一宇荘・至楽荘に続くもので、改築委員会を作つて検討を重ねてきました。建物の一部を東久留米市に教育センター（仮称）として貸与する構想のもと、市とも覚書を交わしました。平成九年には、五階建てが完成する予定で、設計作業に入っています。進捗状況は、追つてお知らせできると思います。

文部大臣賞受賞

学校週五日制への移行期、多様な作品展やコンクールが開催されるようになりました。
小金井小学校では、このような動きをにらんで作品を出品しています。このたび、子供の文化教育研究所主催の第十二回全国小・中学生作品コンクールで、三年生の山田瑛子さんの自由研究「たまご大好き」は、社会科部門で文部大臣奨励賞を受賞し、学校としても優良学校賞を受けました。

「撫子の会」基金振込

ありがとうございます

第二回総会に際し、およそ千名にのぼるたくさんの方々から、基金を寄せていただきました。力を与えて下さった方々のお名前を、十二ページ以降に掲載いたしました。ここに、改めてお礼を申し上げます。

おかげさまで、基金は総会を支えるだけでなく、会報の発行をはじめとする「撫子の会」の活動に対し、大きな裏付けとなっております。会は、多様な分野で、いよいよ動き始めます。引き続き、郵便振替で、基金の協力をお願いします。口座番号や名称は、下欄に示してあります。

会報の発送先

会報今号の発送対象は、平成四年十一月の「発足会」及びそれ以降と、第二回総会を経て今号発行に至るまでに基金をいただいた方としました。昨年発行した会報第三号は、「同期に配布するのほしい」との声もあり、方々にお分けいたしました。今回も是非活用していただきたいと思っておりますので、その節は事務局までご依頼下さい。

新名簿作成に向けて

「発足会」および「第二回総会」を通じて住所等の変更のデータがたくさん寄せられました。名簿改訂に向かって前進しておりますが、まだ十分とは言えません。今後も引き続きデータを蓄積、修正していく必要があり、皆様のご協力をお願い

いたします。ご自身の変更事項はもとより、同期・先輩・後輩の方々の消息をも含めて事務局までお知らせ下さるようお願い申し上げます。

「撫子の会」グッズ

アイデア募集——グッズ委員会

私たちの「撫子の会」を何かの「形」にしたいと考えています。例えば、総会の時やそれぞれのクラス会の時に身につけるもの、あるいは毎日の生活の中で使う小物・カップや湯飲み（?）、ペンや鉛筆等々……いろいろなアイデアを募集します。お考えをお寄せ下さい。

残念ながらこれはタダというわけにはいきません。お分けするには、実費がある程度負担していただかなければなりません。むしろ原価の二倍・三倍の値段となるかもしれません。それでも撫子のマークが入っていると、他では求められない限定品だからほしくなるような……ちよつと難しいかもしれませんが、そんなグッズを用意したいと思っています。皆さんのアイデアをお待ちしています。「撫子の会」事務局まで、できるだけ書面をお願いします。

編集 後記

▼今回も、意気込みはスゴかったのですが、忙しさに足を拘われてしまいました。またまた島田君の筆力に頼りきり。それでも同窓会の盛り上がりでテコに同期会を開くことができ、やはり仲間と語り合うのは楽しいなど再確認しました。「名簿改訂」も頑張ります。

(川田)

▼最近自分も厄年かと気づいたとたん、急に身体が弱くなりました。そういえばここ二年ほど、季節の変わり目によく風邪をひきます。医者いらす医者嫌いで通ってきたはずなのに。これがトシなのでしょいか。先日熱を出し、医者から「大人になってもこんなに大きな扁桃腺を持っている人も珍しい」なんて言われ、何かバカにされた気がしました。小学校の頃よく熱を出し、お尻に打たれたベニシリンの痛さを思い出しました。(鈴木)

▼今回は、第二回総会を中心に、昭和四十一年小金井小卒組が編集しました。皆様の声をできるだけ反映するよう、精一杯努力したつもりですが、不十分な点はお許し下さい。八十年以上の歴史をもつ「撫子」ゆえに、この会報のもつコンセプトにいささかの難しさを感じますが、それはまた次の課題とさせていただきます。(島田)

▼総会時で企画・運営にご尽力下さいました役員の皆様、ご多忙のところ執筆にご協力下さいました皆様の御厚意に、深く感謝致します。(一同)

「撫子の会」会報 第四号

編集担当 昭和四十一年小金井小卒

川田紀雄・鈴木 弘・島田 孝

事務局 東京学芸大学附属小金井小学校内

〒一八四 小金井市貫井北町四の一

電話 〇四二三(二五)二一一八(代)

FAX 〇四二三(二四)八七六〇

☆撫子の会の郵便振替口座の番号と名称

番号 〇〇1〇〇181709121

加入者名 「撫子の会」